－　地方談話会　－

北国のくらし

旭川市市長公室企画課　谷口　清信

日本雪氷学会北海道支部の事業である、地方談話会が、昭和60年 1月25日「北国のくらし」と題して、旭川市との共催により開催されました。

当日は－20℃をこえる非常に厳しい冷え込みで、参加者の出足が心配されましたが、幸い熱心な市民約 150名の参加をみることができました。

今回のテーマは、積雪寒冷地に生活する者にとって最も関心のある、衣と住に重点を置き、三人の講師により進められました。

講演に先立ち、主催者を代表し、木下誠一支部長（北大低温科学研究所長）の挨拶、つづいて、坂東徹旭川市長の挨拶があり、講演に入りました。

最初に、「北国のすまい」と題しまして、北海道東海大学教授神山定雄氏より北国におけるすまいづくりの方向と今後の課題について説明がなされましたが、特に積雪による屋根の重要性について強調、50cmの雪が積もれば 1㎡当たり 150kgにもなり、屋根面積80㎡では 12tもの重さになるなどの具体的話題が紹介されました。

つづいて、「冬を着る」と題しまして、北海道ドレスメーカー学院旭川分院長加藤玲子氏からは、先生が研究、開発を進めております北国の衣服等につきまして、モデルによりわかりやすく紹介されましたが、寒い地域では帽子をかぶることが強調されました。

最後に、「無落雪屋根の注意」と題しまして、北海道工業大学教授遠藤明久氏よりその豊かな経験に基づくM型屋根構法の要点について説明があり、単なる屋根形式でなく、融雪処理方法も含む装置であるとの紹介に参加者が認識をあらたにしたところであります。

以上今回の地方談話会は、日本雪氷学会北海道支部並びに講師の方々の御協力により、盛況のうちに閉会することができましたことにつきましては、厚くお礼を申し上げる次第であります。

旭川地方談話会における聴衆